

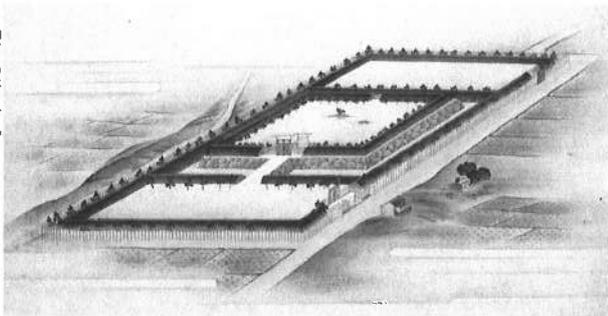
# 幕末維新期の 陵墓と社会

上田長生 著

畿内に広く散在する陵墓(天皇・皇族の墓)は、幕末維新期の政治変動を受け、大きくその性格を変えていく。

本書では、陵墓に政治的意味を付与し、祭祀を行おうとする政治権力(朝廷・山陵奉行)と在地社会の軋轢・葛藤が最も明確に現れた陵墓管理・祭祀に注目する。

分析にあたっては、近世・天保期・文久期・維新期のそれぞれの段階差に十分留意し、とりわけ文久・慶応期の画期性を恒常的な陵墓管理制度と皇霊祭祀が始められたことに求め、陵墓管理・祭祀がもたらされた村・地域社会の側の動向を国毎の違いを明確にしつつ、管理を担った人々の内在的論理に即して検討。社会における天皇の位置づけや天皇認識を町・村社会の具体的なレベルから広範囲かつ実態的に描き出し、幕末の天皇・朝廷と社会の関係性を解明する。



『御陵画帖』  
(国立公文書館所蔵)より  
神武帝「成功」図

## ● 内容目次 ●

序章 近世天皇・朝廷論の展開と課題／近世維新期の陵墓をめぐる先行研究とその問題点／本書の視角と課題

### ■ 第一部 陵墓管理制度・祭祀の形成過程 ■

第一章 幕末維新期の陵墓・皇霊祭祀の形成  
近世天皇家の先祖祭祀と天皇陵の様相／徳川斉昭の修陵建議／文久の修陵と皇霊祭祀の創出／維新後の皇霊祭祀の整備

第二章 幕末期の陵墓考証とその「政治化」  
谷森善臣と疋田棟隆

嘉永・安政期の陵墓考証・探索と京都の山陵考証家／文久の修陵と考証方の構成／疋田棟隆『山陵外史徴按』と谷森善臣の反駁／「己之存意」から朝廷の治定へ

第三章 幕末期における陵墓管理制度の形成  
文久の修陵の性格／長・守戸の設置／修陵・管理に対する在地社会の動向／陵墓管理者の身分問題

第四章 維新时期陵墓政策の特質と展開  
明治諸陵寮の組織と政策課題／陵墓管理制度の改革

### ■ 第二部 陵墓管理・祭祀と村・地域社会 ■

第一章 陵墓管理・祭祀と村社会  
大和・飯豊天皇陵を中心に

近世の三歳山と氏子村々／文久の修陵と郷宮の移転／陵墓管理・祭祀の様相

第二章 「聖域」の形成  
南都・開化天皇陵を中心に

近世の開化天皇陵と念仏寺／文久の修陵／陵墓管理をめぐる動向／維新後の開化天皇陵と神仏分離

第三章 陵墓管理と地域社会  
山陵奉行用達と守戸組合

山陵普請入用と献金・融通／山陵奉行用達米田新五左衛門／長・守戸の身分問題と守戸組合／陵墓管理・守戸組合と村・地域社会

第四章 朝廷権威と在地社会  
山城国の陵墓を素材に

山城における修陵・管理の特質／崇光天皇陵の管理と吉村家

第五章 近世社会における天皇・朝廷権威とその解体  
河内国石川郡叡福寺を中心に

近世叡福寺の組織と運営／天皇・朝廷権威の獲得と活用／近世的天皇・朝廷権威の解体と叡福寺

終章

うえだ・ひさお：一九七八年奈良県生、二〇〇二年立命館大学大学院文学研究科博士前期課程修了、二〇〇八年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。現在、日本学術振興会特別研究員、博士(文学)。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	幕末維新期の陵墓と社会		本体6,200円(税別)	ISBN978-4-7842-1604-8
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				
					書店番線印

【二〇一二年三月刊行】

▼ A5判・三九〇頁／定価六、五一〇円(税5%込)  
ISBN978-4-7842-1604-8

## 歴史のなかの天皇陵

高木博志・山田邦和編

天皇・皇族の墓である陵墓が各時代にどうあり、社会のなかでどのように変遷してきたのか、考古・古代・中世・近世・近代における陵墓の歴史をやさしく説く。京都アスニーで行われた公開講演に加え、研究者・ジャーナリストによるコラムや、執筆者による座談会を収録。

▶A5判・340頁／定価2,625円

ISBN978-4-7842-1514-0

## 象徴天皇制の形成と定着

富永望著

「象徴天皇（制）」という言葉に着目して、この用語の使用法を検証し、さらに吉田茂の憲法運用と、それに異を唱える政治勢力や憲法学者の天皇観を明らかにすることで、象徴天皇制は新憲法の運用の積み重ねによって形成されたことを実証する、気鋭の書。

▶A5判・316頁／定価5,040円

ISBN978-4-7842-1492-1

## 増補 郷土教育運動の研究

伊藤純郎著

1930年代に展開された郷土教育運動の歴史的意義を、柳田国男の郷土研究論と関連させながら、運動を推進した文部省、文部省とは異論を唱える郷土教育連盟、実際にそれをおこなう地域社会の反応を通じて、実証的に解明する。

▶A5判・506頁／定価10,290円

ISBN978-4-7842-1402-0

## 近代京都研究

丸山宏・伊従勉・高木博志編

歴史都市・京都は近代に大きく変わったまちであった——。京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果。

▶A5判・628頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1413-6

## 熊本藩の地域社会と行政 近代社会形成の起点

吉村豊雄・三澤純・稲葉継陽編

永青文庫細川家文書に大量に残された地方行政記録綴「覚帳」や、村役人層をはじめとする住民の評価・褒賞記録綴「町在」の系統的分析を行うことで、19世紀段階の近世行政システムの全容を解明し、さらにそれらが近代社会の成立や地域の近代化にとって、どのような前提条件を提供することになったのかを明らかにする。

▶A5判・420頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1458-7

## 明治維新期の政治文化

佐々木克編

“19世紀における国際環境の中で、明治維新を考える”という京都大学人文科学研究所の共同研究「明治維新期の社会と情報」の研究成果をまとめたもの。政治史、文化史、思想史、精神史を融合した“政治文化”という視点から、明治維新期の諸問題にアプローチを試みる。

▶A5判・390頁／定価5,670円

ISBN4-7842-1262-0

## 近代日本と地域振興 京都府の近代

高久嶺之介著

近代日本の地域社会の姿を、京都府下における、明治前期の京都宮津間車道の開鑿・明治前期～中期にかけての琵琶湖疏水と鴨川運河の開鑿・明治初期～昭和の敗戦直後までの天橋立の保存とその振興・明治初期～昭和の敗戦直後にかけての童仙房村の開拓、という特定のテーマを取り上げ、地域振興の視点から考察する。

▶A5判・364頁／定価6,825円

ISBN978-4-7842-1570-6

## 都道府県庁舎 その建築史的考察

石田潤一郎著

明治維新以降、今日まで100件をこえる都道府県庁舎が建設されてきた。本書では、一次史料をもとに同庁舎の歴史的展開を個別にあとづけ、地方行政制度史・地域史の中で位置づけるとともに、図版史料によってその平面計画及び立面意匠の具体的な把握も試みた。収録図版200余点。

▶A5判・448頁／定価9,030円

ISBN4-7842-0775-9

## 明治期における不敬事件の研究

小股憲明著

天皇を中心とする明治政府の誕生以来、数多く発生しながら体系的な研究がされてこなかった不敬事件を、明治期について網羅。豊富な実例を整理・検討することによって明治国家の特質を考察し、天皇制と教育の関係、ひいては天皇制と近代日本および国民の関係を明らかにしようとする大著。

▶B5判・576頁／定価13,650円

ISBN978-4-7842-1501-0

## 知の伝達メディアの歴史研究 教育史像の再構築 辻本雅史編

「教育」を「知の伝達」ととらえ直し、その伝達のための媒体を「メディア」と規定することで、これまでのような、学校を中心とした教育史像ではなく、学校を含みながらも、学校を越えたところでなされる人間形成の営みを、全体としてとらえなおす視点を提示する。

▶A5判・300頁／定価5,985円

ISBN978-4-7842-1500-3

## 文人世界の光芒と古都奈良 大和の生き字引・水木要太郎

久留島浩・高木博志・高橋一樹編

近代奈良において個人により形成され多様な史資料の「かたまり」である水木コレクションを主な分析の素材とし、日本史学・考古学・建築史学・国文学・美術史学・地理学・社会言語学等にわたる学際的な一書。国立歴史民俗博物館の共同研究の成果。

▶A5判・508頁／定価8,190円

ISBN978-4-7842-1481-5

## みやこの近代

丸山宏・伊従勉・高木博志編

研究分野の相違を問わず、「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を多角的に論じようとする開かれた京都大学「近代京都研究会」で論じられたさまざまな分野の具体的な主題をもとに近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。

▶A5判・268頁／定価2,730円

ISBN978-4-7842-1378-8

## 畿内の豪農経営と地域社会

渡辺尚志編

18世紀末以降、河内国丹南郡岡村（現藤井寺市）の庄屋を世襲した豪農岡田家が、近世・近代において作成・授受した「岡田家文書」は、1万数千点にもおよぶ。近年整理が進められている岡田家文書を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。

▶A5判・508頁／定価8,190円

ISBN978-4-7842-1385-6

## ※鉄道日本文化史考

宇田正著

日本の近代化のなかで陸蒸気＝鉄道がもたらしたものは、はかり知れない。本書では「文化の鏡」としての鉄道をとりあげ、知識人の体験や一般人の認識から民俗・観光（巡礼）・教育との関わりを通して、鉄道が日本人の内的形成に果たした文化的役割を明らかにする。

▶A5判・352頁／定価5,775円

ISBN978-4-7842-1336-8

## 近代日本公園史の研究

丸山宏著

近代欧米都市起源の公園が、いかに近代化の装置として導入され、衛生問題、都市問題、記念事業、経済振興策、政治的役割などさまざまな問題を孕みながら受容されてきたか、その歩みを社会史のダイナミズムのなかにとらえた一書。

▶A5判・400頁／定価8,820円

ISBN4-7842-0865-8

## 西洋化の構造 黒船・武士・国家

園田英弘著

「蒸気船の時代」から始まった日本の近代化の特質と諸相を明かし、従来の近代化論に一石を投じる。【内容】「極東」の終焉—黒船前史／蒸気船ショックの構造／海防の世界／郡県の武士—武士身分解体に対する一考察／森有礼研究／西洋化の論理／「選挙」と「選抜」／E・S・モースのニューイングランドにおける知的環境

▶A5判・380頁／定価7,875円

ISBN4-7842-0801-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。  
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。